

令和 5 年度

第 12 回・第 13 回ビジネスコミュニケーション検定試験
実施報告及び今後の検定試験について

資 料



主 催 公 益 財 団 法 人 全 国 商 業 高 等 学 校 協 会

公益財団法人全国商業高等学校協会 主催
ビジネスコミュニケーション検定試験規則

(平成 25 年 2 月、平成 26 年 2 月、平成 27 年 2 月、令和 3 年 2 月改定・令和 4 年 4 月施行)

- 第 1 条 公益財団法人全国商業高等学校協会は、ビジネスマナーおよびコミュニケーションに関する知識および能力を検定する。
第 2 条 検定は筆記試験によって行う。
第 3 条 検定は 1 種類とし、級の区別を設けない。
第 4 条 検定試験は全国一斉に同一問題で実施する。
第 5 条 検定試験は年 1 回実施する。
第 6 条 検定試験の出題範囲は別に定める。
第 7 条 検定に合格するためには、次の成績を得なければならない。

試験名	合格基準
筆記試験	100 点満点で、70 点以上

- 第 8 条 検定に合格した者には、合格証書を授与する。
第 9 条 前条による合格証書は、次の様式による。

様 式

第 号
合 格 証 書
氏名
年 月 日生
本協会主催 第 回ビジネスコミュニケーション検定試験に合格したことを証します。
令和 年 月 日
公益財団法人 全国商業高等学校協会
理事長 氏 名 印

- 第 10 条 検定試験志願者は所定の受験票に受験料を添えて本協会に提出しなければならない。
第 11 条 試験委員は高等学校その他の関係職員がこれに当たる。

ビジネスコミュニケーション検定試験施行細則

- 第 1 条 受験票は本協会で交付する。受験票は試験当日持参しなければならない。
第 2 条 検定試験規則第 5 条による試験日は、毎年 12 月の第 3 日曜日とする。
第 3 条 筆記試験の制限時間は 40 分とする。
第 4 条 受験料は、1,300 円とする。(消費税を含む)
第 5 条 試験会場では試験委員の指示に従わなければならない。
第 6 条 合格発表は試験施行後 1 か月以内に行う。その日時は試験当日までに発表する。

ビジネスコミュニケーション検定試験実施に係る特例について
新検定移行期における令和 4 年度・5 年度に限り、検定試験を年 2 回実施する。
試験日は、7 月の第 2 日曜日および 12 月の第 3 日曜日とする。

令和5年度 第12回ビジネスコミュニケーション検定試験

本部校アンケート 集計結果

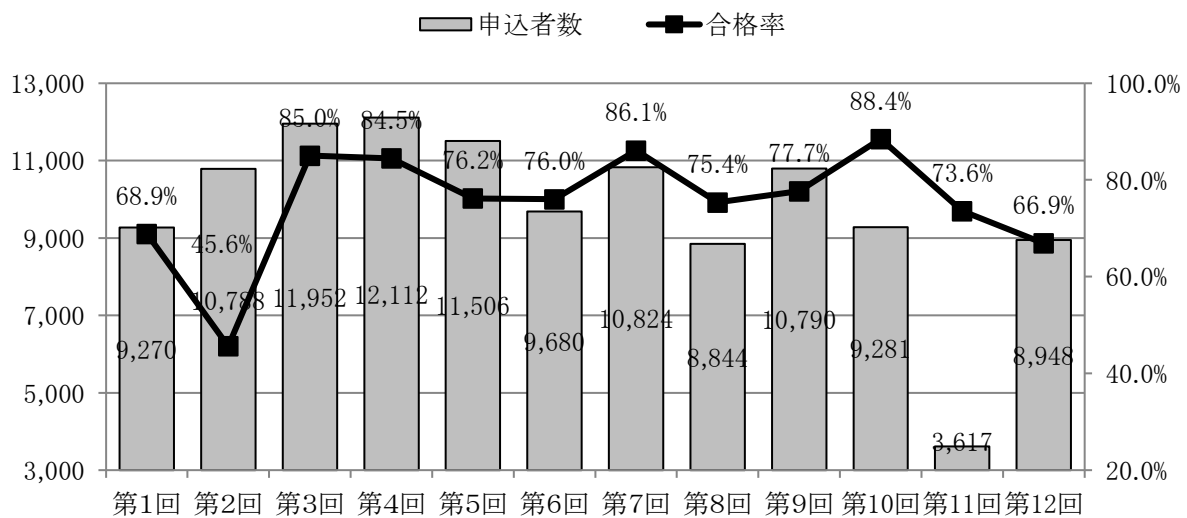
1. 受験状況

〈全 般〉

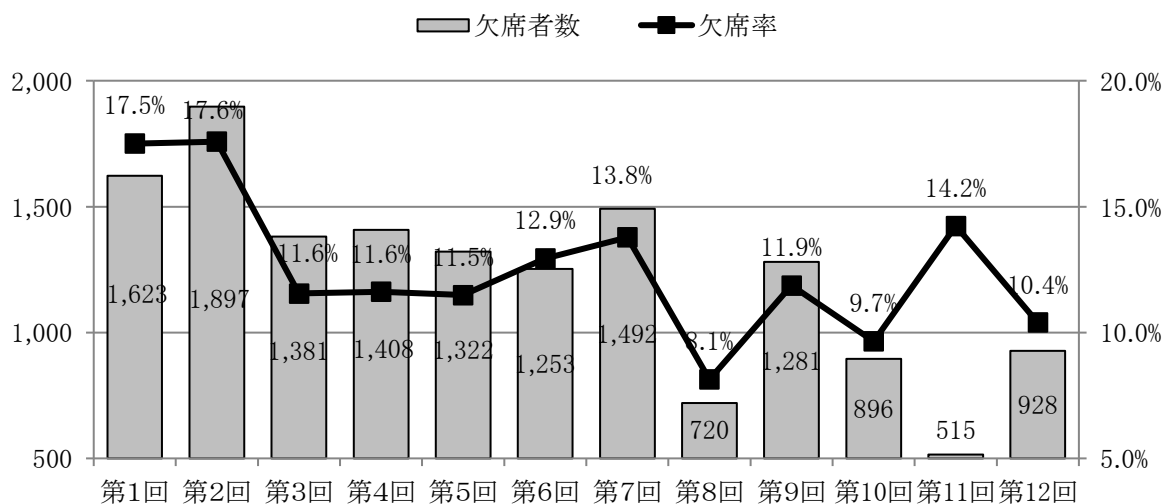
(注) 本部校アンケートには未回収分があるため、全商 Web による集計値より作成した。

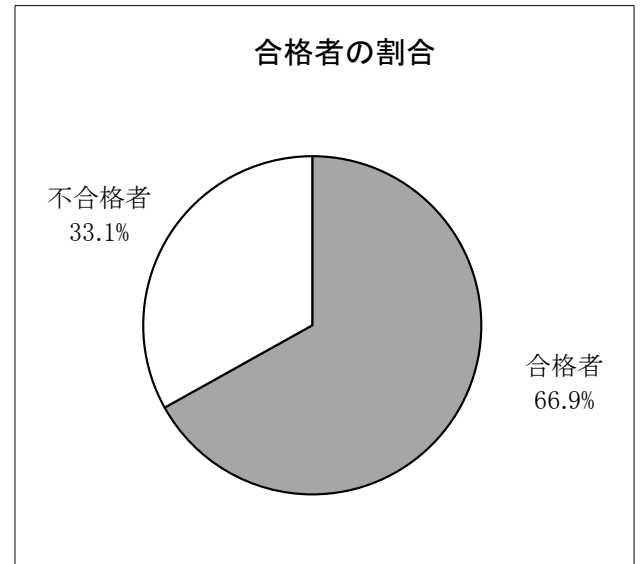
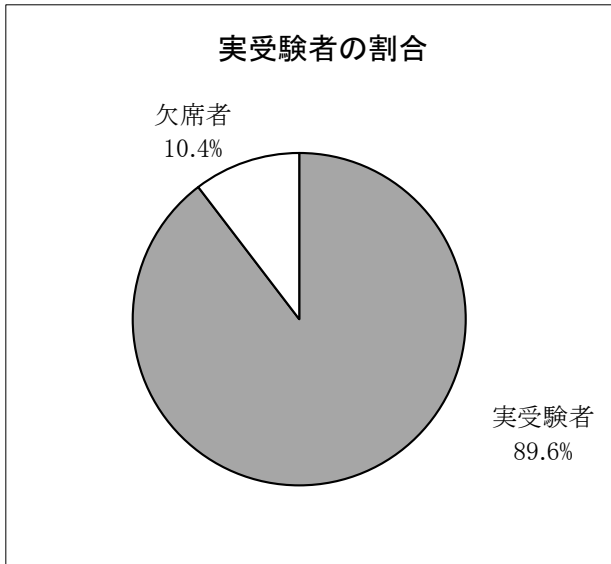
年度	回	試験場校 分会場校	申込者数	欠席者数	欠席率	実受験者	合格者数	不合格者数	合格率
2013	第1回	239	9,270	1,623	17.5%	7,647	5,265	2,382	68.9%
2014	第2回	263	10,788	1,897	17.6%	8,891	4,056	4,835	45.6%
2015	第3回	255	11,952	1,381	11.6%	10,571	8,986	1,585	85.0%
2016	第4回	245	12,112	1,408	11.6%	10,704	9,040	1,664	84.5%
2017	第5回	248	11,506	1,322	11.5%	10,184	7,756	2,428	76.2%
2018	第6回	216	9,680	1,253	12.9%	8,427	6,406	2,021	76.0%
2019	第7回	233	10,824	1,492	13.8%	9,332	8,034	1,298	86.1%
2020	第8回	208	8,844	720	8.1%	8,124	6,122	2,002	75.4%
2021	第9回	242	10,790	1,281	11.9%	9,509	7,384	2,125	77.7%
2022	第10回	226	9,281	896	9.7%	8,385	7,416	969	88.4%
2022	第11回	102	3,617	515	14.2%	3,102	2,282	820	73.6%
2023	第12回	215	8,948	928	10.4%	8,020	5,366	2,654	66.9%

申込者数と合格率の推移



欠席者数と欠席率の推移



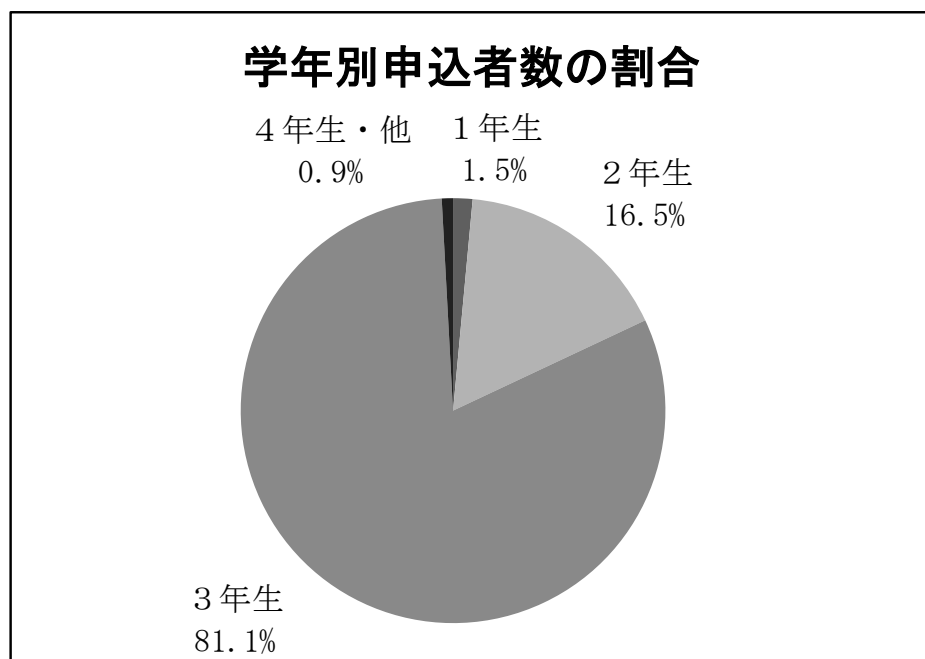


〈学年別受験状況〉

学年	申込者数	欠席者数	欠席率	実受験者	合格者数	不合格者数	合格率
1年生	102	14	13.7%	88	59	29	67.0%
2年生	1,144	78	6.8%	1,066	777	289	72.9%
3年生	5,613	564	10.0%	5,049	3,434	1,615	68.0%
4年生・他	59	9	15.3%	50	26	24	52.0%
合計	6,918	665	9.6%	6,253	4,296	1,957	68.7%

(注 1) 本部校アンケートには未回収分があるため、全商 Web による集計値と異なる値となっている。

(注 2) 本部校アンケートには複数回答や回答数の不一致、集計方法の誤り等がある。



2. 受験者の内訳

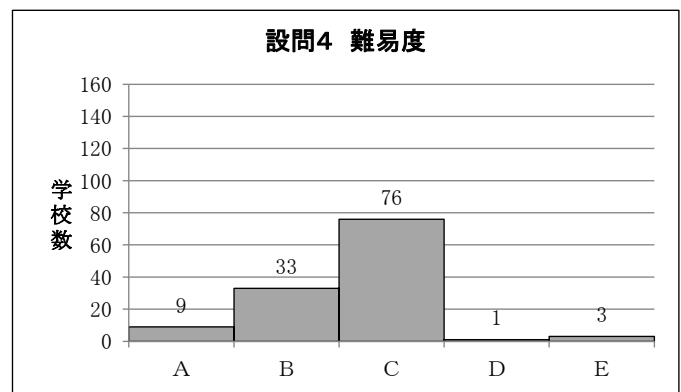
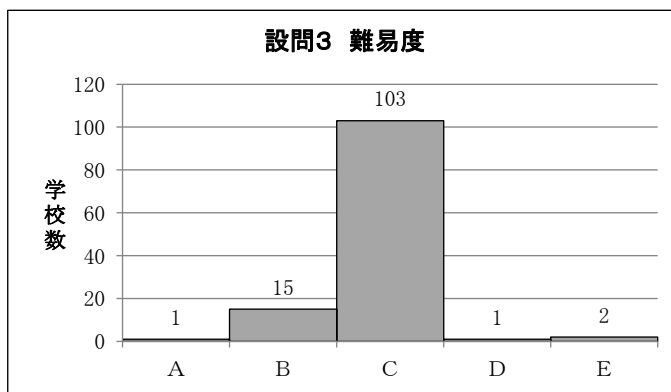
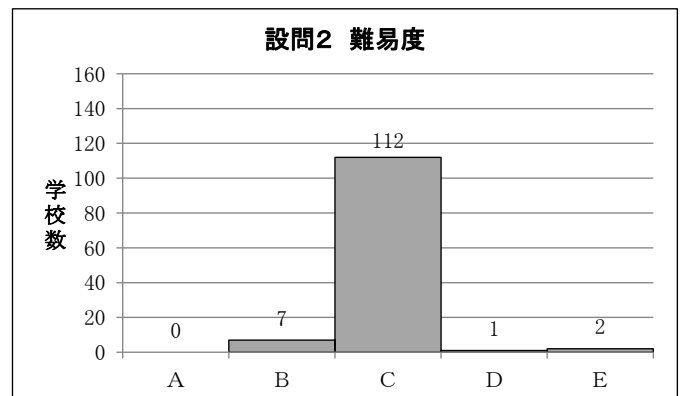
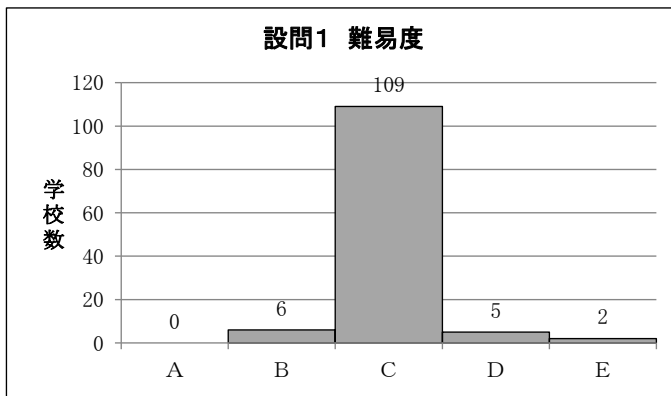
内訳	計	割合
特定授業履修者全員	75	51.7%
就職希望者全員	3	2.1%
学年全員(1年生)	0	0.0%
学年全員(2年生)	1	0.7%
学年全員(3年生)	20	13.8%
学年全員(学年不明)	0	0.0%
希望者のみ	37	25.5%
その他	9	6.2%

3. 受験にあたっての学習形態

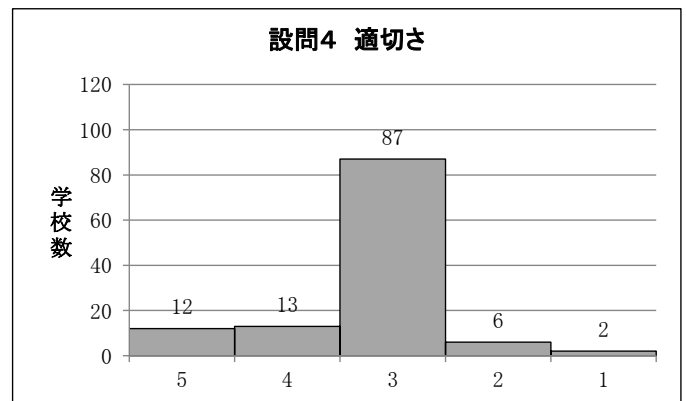
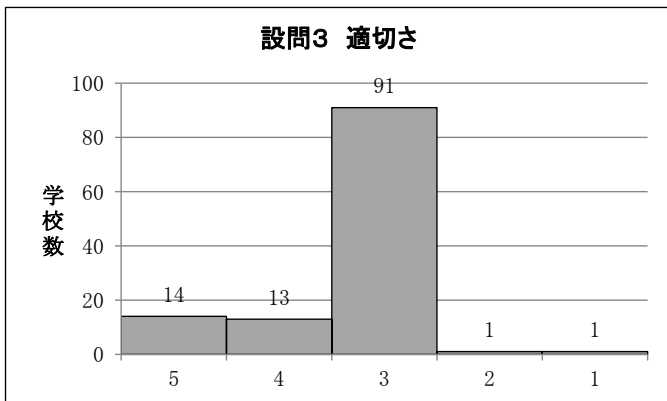
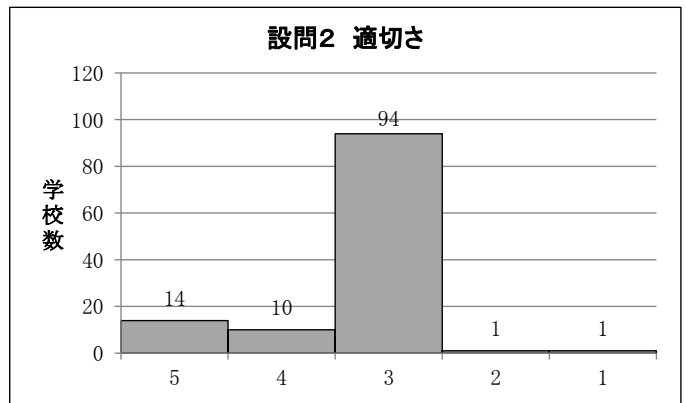
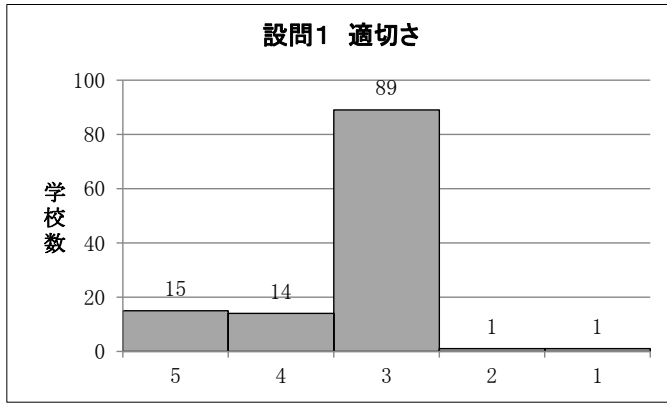
内訳	計	割合
授業	ビジネス基礎	10 5.9%
	ビジネス実務	37 21.8%
	広告と販売促進	0 0.0%
	総合実践	28 16.5%
	課題研究	36 21.2%
	総合的な学習の時間	2 1.2%
	ビジネスコミュニケーション	9 5.3%
	学校設定科目	9 5.3%
	その他の科目	4 2.4%
授業外	ホームルーム等	1 0.6%
	講習会等	0 0.0%
	進路指導の一環	3 1.8%
	受験者の自主学習	30 17.6%
	期間限定補習	0 0.0%
	その他	1 0.6%

4. 筆記試験の難易度と適切さ

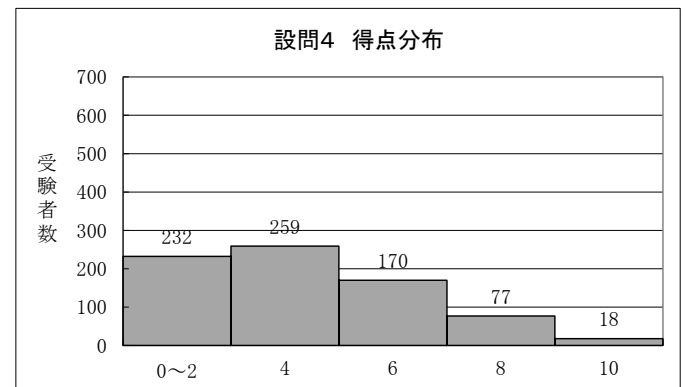
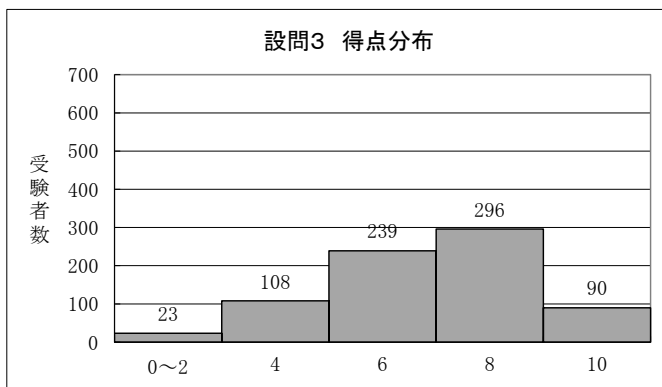
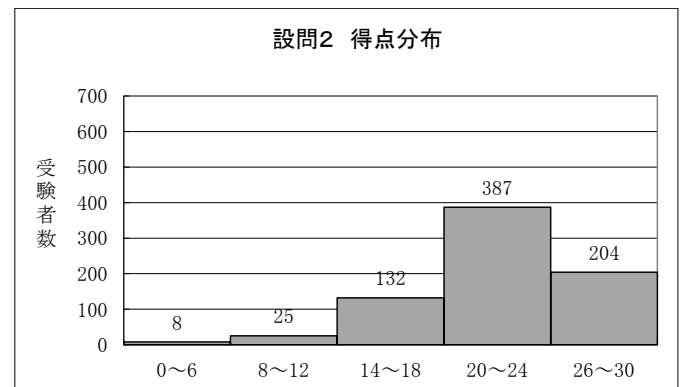
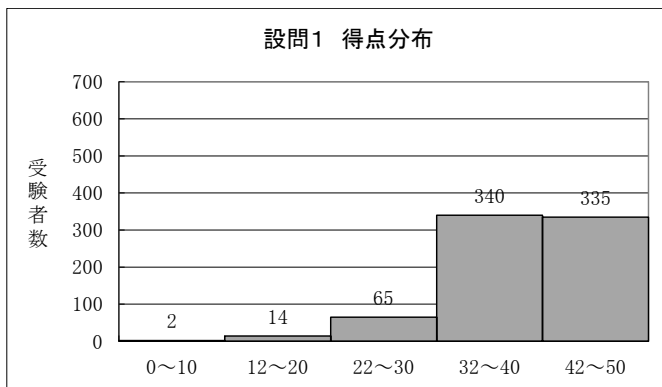
〈設問別難易度〉



〈設問別適切さ〉



〈設問別得点分布〉



〈筆記試験意見〉

【設問1（ビジネスマナーに関する内容）】

- ・（3）の問題は休暇全般の取り方について問うことでもよいのではないか（宮城県）
- ・問題6の女性のストッキングを履くような問題はジェンダーを意識している現代社会にあっていない。（埼玉県）
- ・（14）この問題は、受けた電話を相手より先に切るのは適切ではないという論点でしょうか。「ウ」の文章と比較したとき、お詫びの言葉を添えるとはいえ、夜遅くに電話をかけることの方がより不適切ではないでしょうか？受験生が誤解しないよう「ウ」は「早朝の昼食時間帯および、やむを得なく夜遅くかけるときは・・・」と表現した方がよかったのではないのでしょうか。（千葉県）
- ・問題文の表現が面白い問題があった。問題文を読むや否や正答、誤答とわかる問題があり、生徒にとっては幸運であった。（静岡県）
- ・（18）については、B席を末席にする考えは理解できるが、現実的にすぐに席を立て飲み物やお弁当をてはいふことを考えると、C席を末席にしたほうが良い（岡山県）
- ・問題集に準じた一般常識的な問題で普段通りの出題で対応可能であった。（徳島県）

【設問2（コミュニケーションに関する内容）】

- ・全般的に深い知識を問う問題が多い（宮城県）
- ・出題範囲が広く、受験者には難しい問題が多かったように思う（岡山県）
- ・問題集に準じた一般常識的な問題で普段通りの出題で対応可能であった。（徳島県）

【設問3（設定場面における適切な対応）】

- ・全般的に深い知識を問う問題が多い（宮城県）
- ・マーケティングの要素も入り、商業科目の横の連携、横のつながりが理解できる問題であった。良問である（静岡県）
- ・5問正解できた受験者は少なかった（岡山県）
- ・少し難しい問題もあった。普段からニュースなどで使われている用語も学習しておく必要があると感じた。ビジネスの場面を想定した実践的な良い問題であった。（徳島県）

【設問4（ビジネス全般に関する内容）】

- ・全般的に深い知識を問う問題が多い（宮城県）
- ・教科書や問題集の学習だけでは解答が難しい。（宮城県）
- ・例年よりも難しい問題が多かった（宮城県）
- ・問題集に記載のない「ビジネス法規」で学ぶ内容の問題や問題集に記載のある問題でも詳細な説明のない内容の問題が多く、生徒には難問であった（新潟県）
- ・0点から2点の受験者の33%（静岡県）
- ・ビジネス全般について、まだ理解していないことがこの出題で理解できる。（岡山県）

5. ビジネスコミュニケーション検定試験全般についての意見集約

【実施時期について】

- ・4月から3単位で始めると、内容が濃いため7月の検定に間に合わせることが難しいと感じる。(静岡県)
- ・来年から7月受験がなくなると、3年生が就職試験後となるので受験者数が少なくなるおそれあり。(山口県)
- ・12月実施に変わることによって、資格の取得に関しては就職・進学に間に合わなくなるが、今後とも引き続き受験していきたい。(佐賀県)

【内容について】

- ・**4**はビジネス基礎や簿記会計、または時事的分野の複合的な問題を含み良問だと思うが、既存の教科書や問題集の学習だけで解答するのは難しい。(宮城県)
- ・**2**(4)ウについて、「速達」と通常の郵便物の違いは、配達局に到達したときにすみやかに配達するかどうかであり、そのため、追跡も配達証明もできない。郵便局で到着日や到着時間を確認することができるのは、あくまでも予定日を教えてくれるだけであって、それは速達に限らず郵便物全般について教えてくれるはずである。よってこの問題は良問とは言えないと思う。(宮城県)
- ・就職試験そしてビジネスマナーを身に付けるうえで、有意義な検定であると思う。(栃木県)
- ・**1**(14)の問題は、受けた電話を相手より先に切ることは適切でないという論点だろうが、「ウ」の文章と比較したとき、お詫びの言葉を添えるとはいえ、夜遅く電話をかけることの方がより不適切ではないか。受験生が誤答しないよう「ウ」は、「早朝や昼食時間および、やむを得ず夜遅く電話を掛けるときは…」と表現した方がよかったのではないか。(千葉県)
- ・本県においてプロパー以外の高校からの受験が多く、ビジネスコミュニケーション検定の需要はそういった専門性の高くない学校にもある。検定出題の難易度については、そういった需要を勘案していただき作成をお願いしたいと思う。(新潟県)
- ・図の示し方など、ひっかけ問題が数問あった。(兵庫県)
- ・どの問題も一般常識として身に付けておくべき内容であったと思う。今後、企業の理解が深まり、就職希望の生徒が積極的に受験することを期待する。(岡山県)
- ・生徒が社会人として働くことをイメージできる検定になっており、今後とも活用したい。(徳島県)
- ・職場におけるSNSやメール等の利活用の場面が増えていると思われるため、出題を検討されることを望む。(高知県)

【難易度について】

- ・問題の難易度は例年と比べても違いはないと感じたが、生徒の合格点を見ると70点台でなんとか合格という生徒が多かった。(秋田県)
- ・昨年度より合格率は低くなったが、難易度等は適切であったと思う。(静岡県)
- ・今回の検定では、合格ラインから10点以内の増減が多数であった。(愛知県)
- ・これまでの出題と比較して、難易度がかなり上がっているように思う。次回から出題傾向が変わるので過去問題で対策をしてきたが、かなり残念な結果になってしまった。(岡山県)
- ・合格者が思ったより少なく、昨年度の問題より難易度が高かったのかと思う。(佐賀県)

【感想、その他】

- ・年2回の実施になり、より受験しやすくなった。(埼玉県)
- ・作問の作業もここ2年間は年2回となる中、適切な作問をしていただき感謝している。(千葉県)
- ・本校では、今回受験希望者が集まらず原則の30名を下回ったが、15名以上の受験希望者がいたので、委員長判断により試験を実施できた。今後も受験希望者が増える見込みがないため、15名以下でも受験可能となるよう規定を変更できないか。また、受験者を増やす方法として、受験料の値下げを検討いただけないか。(千葉県)
- ・検定実施校が少ないために、分会場校として実施することも難しい状況になっているので、試験場校の人数制限の緩和または撤廃を検討願いたい。(新潟県)

- ・ビジネスマナーを学び、試験に臨めることは有意義である。(静岡県)
- ・範囲の中から適切な問題が出題されており、受験者の能力がしっかり判断できる。(岐阜県)
- ・7月の検定が今回で終了し、来年度以降3年生の受験者がいなくなるため、どの授業で受験者を募るか今後検討していきたい。(三重県)
- ・面接試験がなくなった後、本検定に従来参加していた学校が参加しなくなった。(和歌山県)
- ・すべて記号での解答であるため、OCRを利用するか、マーク式にして採点を簡略化できると助かる。(島根県)
- ・問題作成が大変な作業だと感じる。選択肢を苦勞して考えられていることに感謝する。(山口県)
- ・この検定の難易度を上げ(英語の内容をくわえるなど)、会計実務検定のように1級の種目カウントをすれば受験者は増えるのではないか。(山口県)
- ・簿記、情報処理、珠算・電卓に比べ、社会における認知度が低く、書面における記載しての評価が軽い。全経等、他団体との協力でビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーの資格取得の大切さを広めていってほしい。(徳島県)
- ・4択問題25問を少し減らし、○×の2択問題にしてみるもの良いのでは。(愛媛県)
- ・アンケート用紙をエクセルにしてもらえると助かる。(鹿児島県)

令和5年2月10日作成

令和5年度 第13回ビジネスコミュニケーション検定試験

本部校アンケート

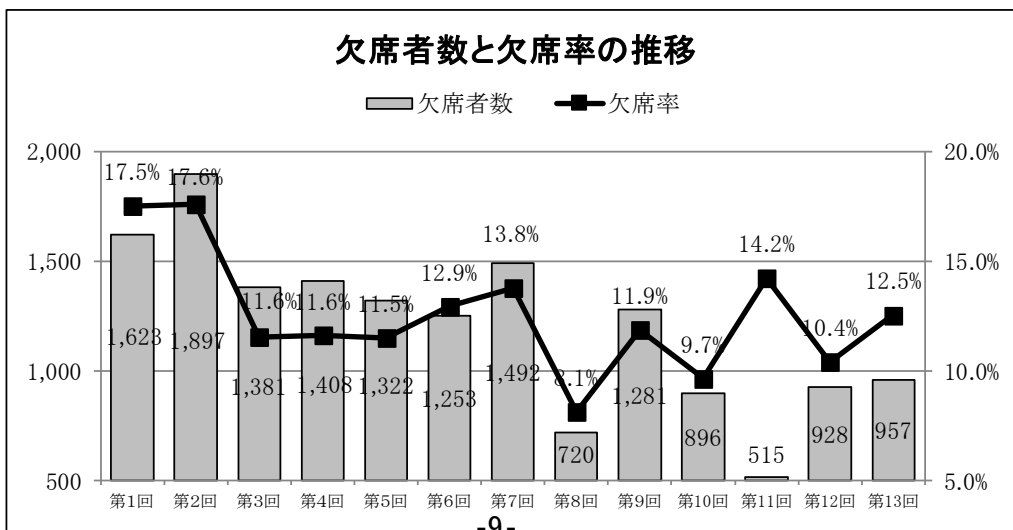
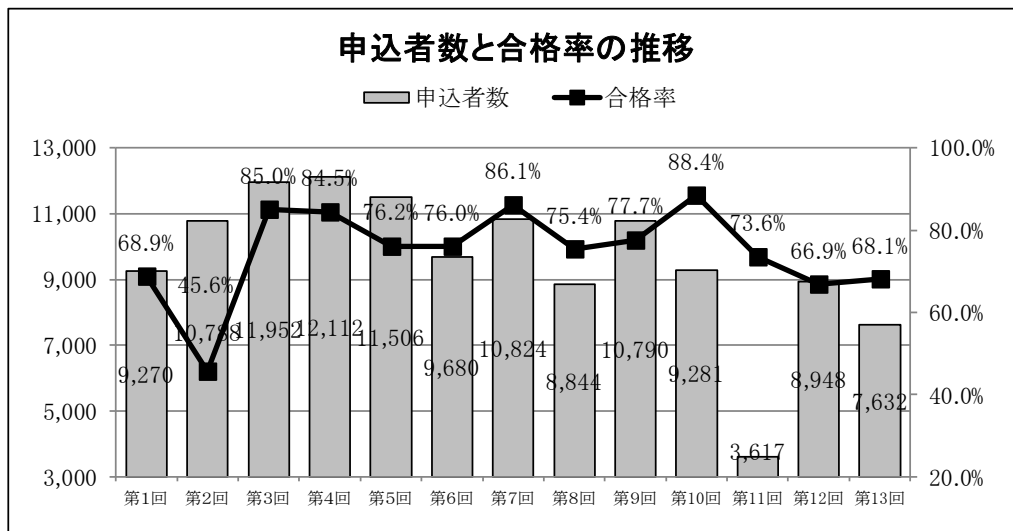
集計結果

1. 受験状況

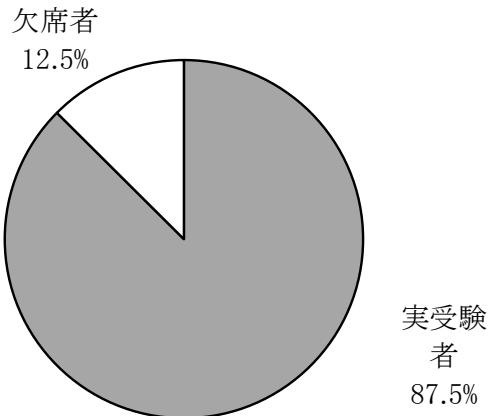
〈全 般〉

(注)本部校アンケートには未回収分があるため、全商 Web による集計値より作成した。

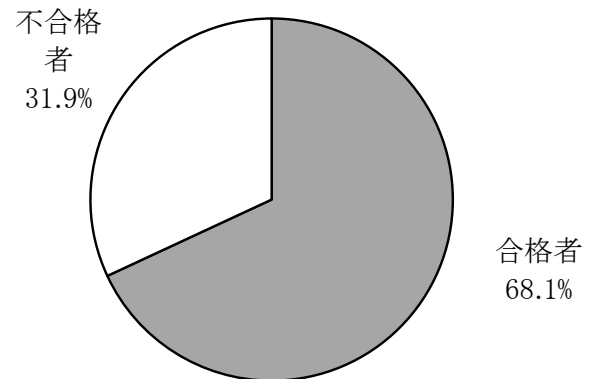
年度	回	試験場校 分会場校	申込者数	欠席者数	欠席率	実受験者	合格者数	不合格者数	合格率
2013	第1回	239	9,270	1,623	17.5%	7,647	5,265	2,382	68.9%
2014	第2回	263	10,788	1,897	17.6%	8,891	4,056	4,835	45.6%
2015	第3回	255	11,952	1,381	11.6%	10,571	8,986	1,585	85.0%
2016	第4回	245	12,112	1,408	11.6%	10,704	9,040	1,664	84.5%
2017	第5回	248	11,506	1,322	11.5%	10,184	7,756	2,428	76.2%
2018	第6回	216	9,680	1,253	12.9%	8,427	6,406	2,021	76.0%
2019	第7回	233	10,824	1,492	13.8%	9,332	8,034	1,298	86.1%
2020	第8回	208	8,844	720	8.1%	8,124	6,122	2,002	75.4%
2021	第9回	242	10,790	1,281	11.9%	9,509	7,384	2,125	77.7%
2022	第10回	226	9,281	896	9.7%	8,385	7,416	969	88.4%
2022	第11回	102	3,617	515	14.2%	3,102	2,282	820	73.6%
2023	第12回	215	8,948	928	10.4%	8,020	5,366	2,654	66.9%
2023	第13回	178	7,632	957	12.5%	6,675	4,544	2,131	68.1%



実受験者の割合



合格者の割合



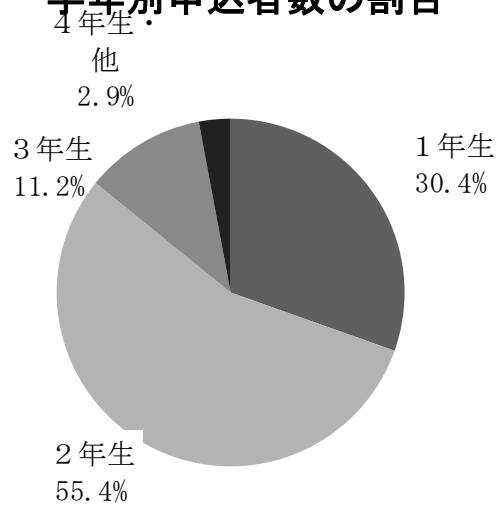
〈学年別受験状況〉

学年	申込者数	欠席者数	欠席率	実受験者	合格者数	不合格者数	合格率
1年生	2,010	127	6.3%	1,883	1,403	480	74.5%
2年生	3,660	437	11.9%	3,223	2,166	1,057	67.2%
3年生	740	140	18.9%	600	400	200	66.7%
4年生・他	194	3	1.5%	191	9	182	4.7%
合計	6,604	707	10.7%	5,897	3,978	1,919	67.5%

(注 1) 本部校アンケートには未回収分があるため、全商 Web による集計値と異なる値となっている。

(注 2) 本部校アンケートには複数回答や回答数の不一致，集計方法の誤り等がある。

学年別申込者数の割合



2. 受験者の内訳

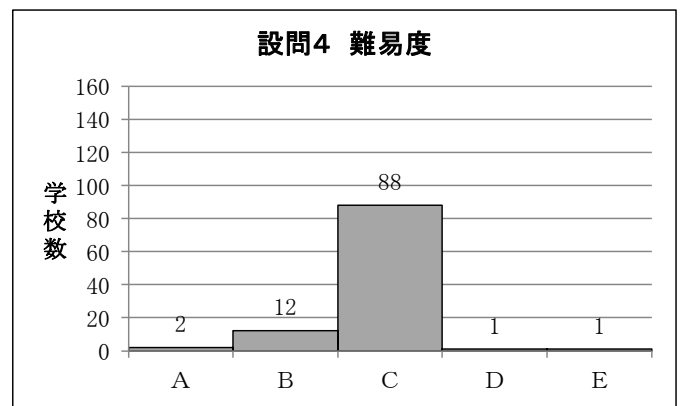
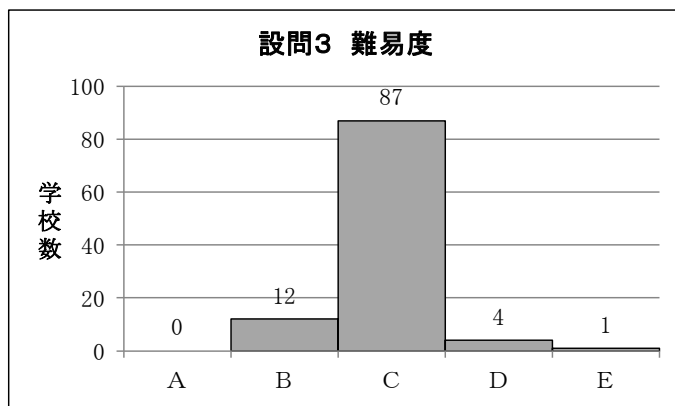
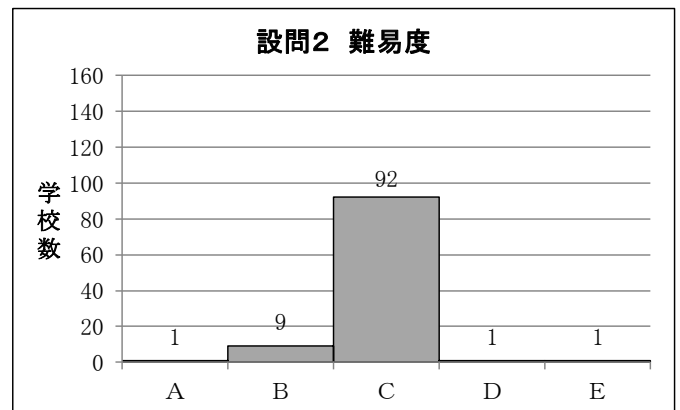
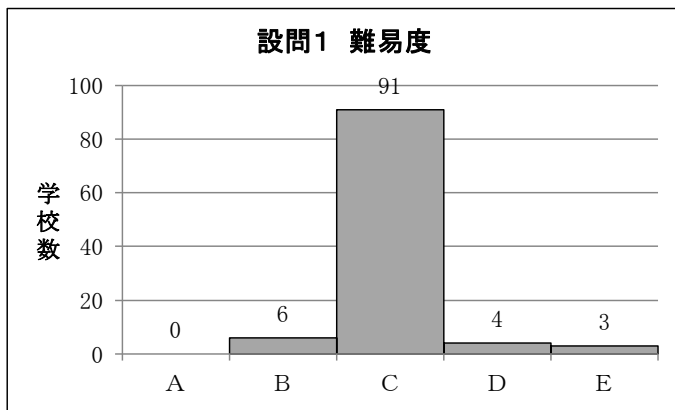
内訳	計	割合
特定授業履修者全員	64	48.5%
就職希望者全員	0	0.0%
学年全員(1年生)	4	3.0%
学年全員(2年生)	7	5.3%
学年全員(3年生)	0	0.0%
学年全員(学年不明)	3	2.3%
希望者のみ	49	37.1%
その他	5	3.8%

3. 受験にあたっての学習形態

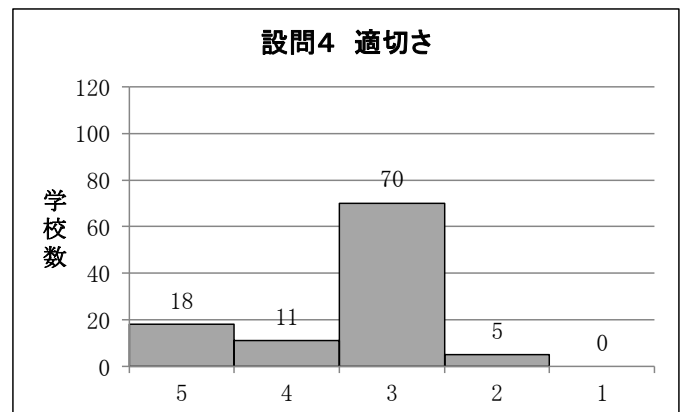
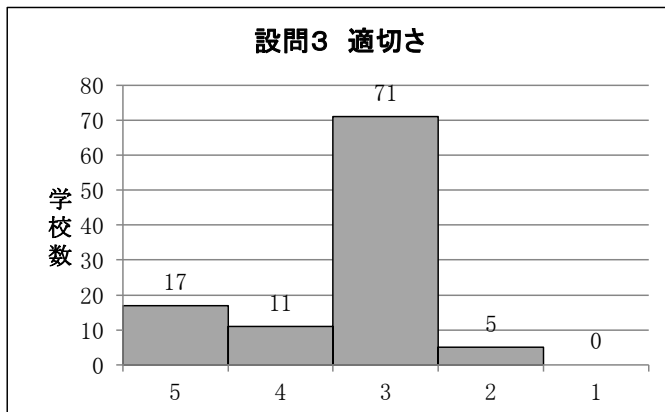
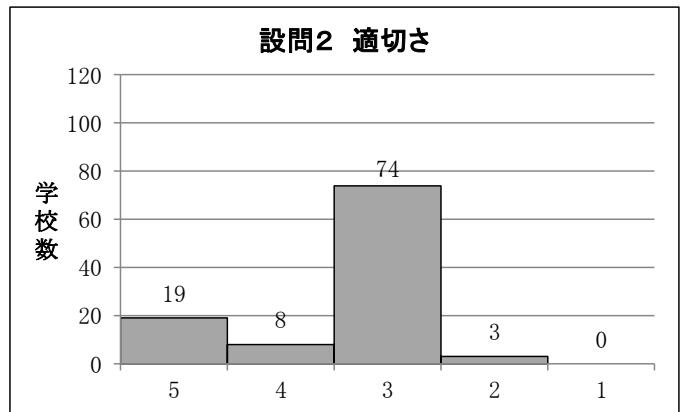
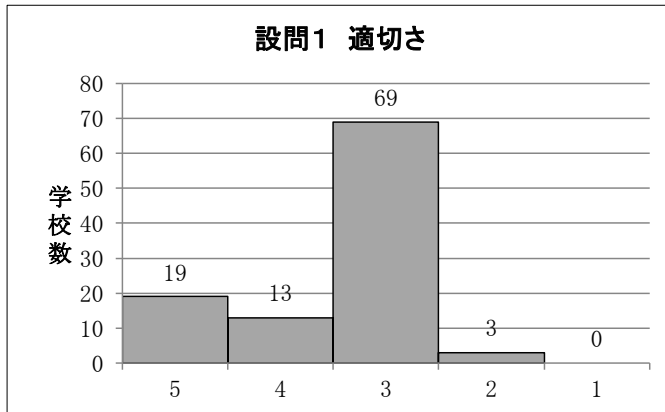
	内訳	計	割合	
授業	ビジネス基礎	13	8.7%	79.2%
	ビジネス実務	5	3.4%	
	広告と販売促進	0	0.0%	
	総合実践	8	5.4%	
	課題研究	7	4.7%	
	総合的な学習の時間	2	1.3%	
	ビジネスコミュニケーション	70	47.0%	
	学校設定科目	6	4.0%	
	その他の科目	7	4.7%	
	ホームルーム等	0	0.0%	
授業外	講習会等	0	0.0%	20.8%
	進路指導の一環	4	2.7%	
	受験者の自主学習	26	17.4%	
	期間限定補習	0	0.0%	
	その他	1	0.7%	

4. 筆記試験の難易度と適切さ

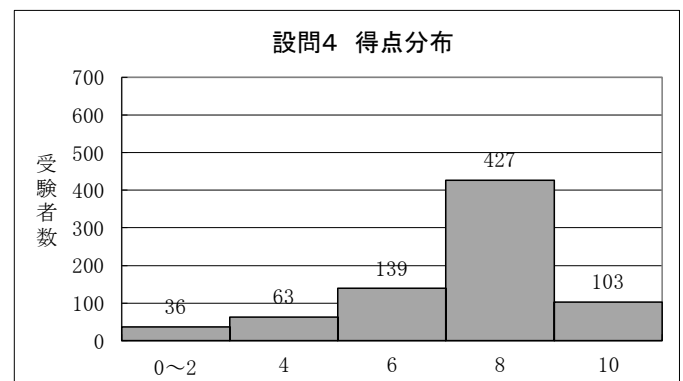
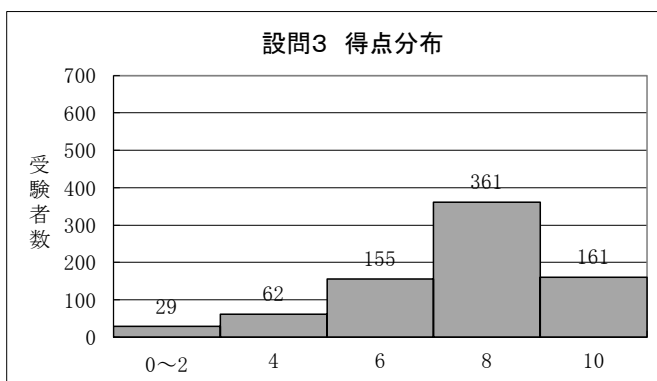
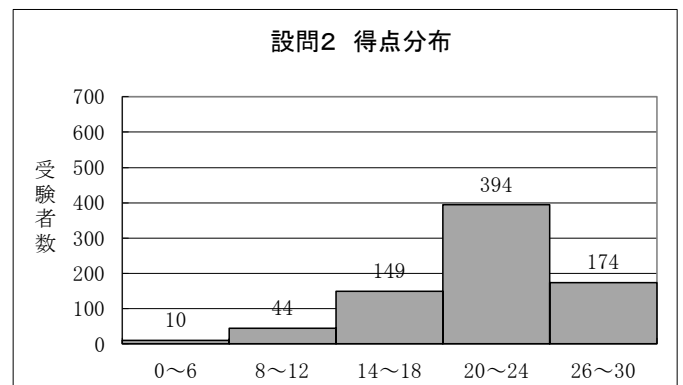
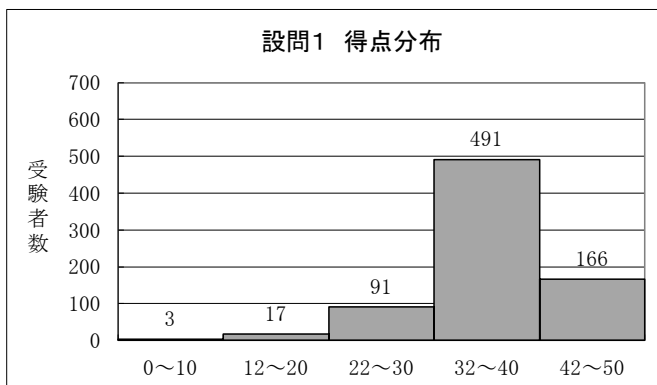
〈設問別難易度〉



〈設問別適切さ〉



〈設問別得点分布〉



〈筆記試験意見〉

【設問 1（ビジネスマナーに関する内容）】

- ・例年通りの難易度であった（鹿児島県）

【設問 2（コミュニケーションに関する内容）】

- ・全県において意見なし

【設問 3（設定場面における適切な対応）】

- ・「ブラザー・シスター制度」は、教科書にも検定テキストにも記載されていない。（秋田県）
- ・ブラザー・シスター制度について問うのはいささか疑問に感じた。（埼玉県）
- ・（2）は社員 A の対応のレベルによってどれでも該当するのではないか。（愛媛）

【設問 4（ビジネス全般に関する内容）】

- ・（5）お見舞いの結び切りに気づけなく、間違いが多かった（宮城県）
- ・問題が後半になるにつれ、徐々に難易度が上がり、良問だと思いました（福島県）
- ・良問であった（茨城県）
- ・（3）時事用語の関する問題として良問であった。（新潟県）
- ・文章だけでなく図も参照して考えないと解答できない問題であり、正解率が極端に低かった。（新潟県）
- ・（5）が難しかった（佐賀県）
- ・（5）の問題は正解者がいませんでした。選択肢の文面から適切でない部分を選ぶことができなかった用です。（熊本県）

5. その他、ビジネスコミュニケーション検定試験全般についての意見集約

【実施時期・実施時間について】

- ・午前中に実施の日程にしてほしい（宮城，滋賀）
- ・英語検定と別日程にしてほしい（長野，愛知，和歌山，佐賀）
- ・検定日を2月にしてほしい（鹿児島）
- ・今後受験者数が増加すると見込まれ、午後からの実施では採点の終了時間が遅くなるので、英語検定と別日程で、午前中から実施してもらいたい（群馬）
- ・期末考査期間と重なり、生徒の負担が少なくない。もう1週ずらすなど時期を検討してほしい（埼玉）
- ・12月実施のメリットが少ない。昨年も今年も大寒波が襲った（新潟）
- ・1日に英検とビジコミ検定を実施するのはよくない。生徒の負担で、検定業務のミスのもとになる（岡山）
- ・英語検定と実施日が重なると、生徒の負担が増えるため受験者が減少する（岡山）
- ・弾力的に開始時間を決められるとよい（福島）
- ・英語検定と同日開催ありがとうございます（福島）

【内容について】

- ・教科書、テキスト等で扱われていないものを出题するのはどうなのか（秋田）
- ・ビジネスマナー講師によって、説明やロープレに相違がある。教科書の内容も地域によって、あるいは昨今の慣習において異なる部分がある。あくまで基本・常識の範疇で作問してほしい（岐阜）
- ・このご時世に「男として」「女として」という問題は、時代錯誤に感じる。時代に合わせたマナーやルール・在り方も試行錯誤が必要（京都）
- ・「適切でないものを選びなさい」の問題が多いのは、意図があるのか（長崎）
- ・自分の考えと社会から求められている標準との違いを知るきっかけとなる（島根）
- ・受験者が社会における常識と自分の知識のずれを学習できて、満足していた。（熊本）
- ・用語を問われる問題は、知識不足から正解できず、60点台で落ちる生徒も数人いた。実務的な内容（接遇など）がもっと問題に入ってくると、基礎学力が低い生徒でも取り掛かりやすい検定だと思う（熊本）

- ・問題文内で、戸惑う表現が多くあることも回答に時間を要することになっている。受験生が戸惑う表現をなるべくなくしてほしい（千葉）
- ・本校の生徒には、「適切なもの」「適切でないもの」の頭の切り替えがすぐに難しく、事前に訓練を要すると感じた（愛知）

【感想, その他】

- ・科目「ビジネスコミュニケーション」ができたので、商業経済検定と統合してもらいたい（群馬）
- ・受験コース、受験者数とも少ないので、試験場校と認定される受験者数の下限を引き下げてほしい（福井）
- ・分会場制度の見直しがあり、小規模校ではありがたい。（佐賀）
- ・商業科目の検定の登龍門的な存在としたいと言っていたが、ビジネス基礎とビジコミの検定の扱いを考えないと受験増はない（京都）
- ・指導を長く続けてきて、大変意義のある素晴らしい検定だと思う。アンケートを通じた情報分析によって、よい方向に向かうことを祈っている（佐賀）
- ・3年生対象で大いに役立っていた。7月実施の検定と異なり、15人集めるために1年生に自主学習による受験を呼びかけなければならず、生徒に申し訳なかった（佐賀）
- ・記号のみであればマークシートにしてもらいたい（茨城）
- ・CBT方式の実施では、PC教室が限られており、ローテーションを実施すると午後開始では終了時刻が遅くなる。この検定が本当に必要なのか疑問に思う（岡山）
- ・CBTを導入し、受験者の層を拡大できるとよい。また、中学生に対する広報の一環として、大学に進学してもビジネスマナーに関する学習をすることが大切である（千葉）

令和5年度 第12回 ビジネスコミュニケーション検定試験 申込者数・受験者数・合格者数集計表

令和5年7月9日(日)実施

No.	都道府県名	試験場 校数	分会場 校数	高校			一般			合計		
				申込	受験	合格	申込	受験	合格	申込	受験	合格
1	北海道	5	1	234	221	158	0	0	0	234	221	158
2	青森県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	岩手県	2	0	19	19	18	0	0	0	19	19	18
4	宮城県	7	1	319	270	172	0	0	0	319	270	172
5	秋田県	3	2	90	89	47	0	0	0	90	89	47
6	山形県	4	0	67	63	40	0	0	0	67	63	40
7	福島県	6	1	267	251	178	16	15	8	283	266	186
8	茨城県	7	0	289	249	143	0	0	0	289	249	143
9	栃木県	9	1	1,519	1,440	1,152	0	0	0	1,519	1,440	1,152
10	群馬県	6	0	484	460	315	0	0	0	484	460	315
11	埼玉県	9	1	415	386	183	0	0	0	415	386	183
12	千葉県	2	0	28	26	18	0	0	0	28	26	18
13	山梨県	2	1	99	91	58	0	0	0	99	91	58
14	東京都	3	0	140	114	72	0	0	0	140	114	72
15	神奈川県	1	0	16	13	12	0	0	0	16	13	12
16	新潟県	8	1	326	313	246	0	0	0	326	313	246
17	富山県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18	石川県	1	0	10	9	8	0	0	0	10	9	8
19	福井県	3	1	57	52	35	0	0	0	57	52	35
20	長野県	5	0	205	188	134	0	0	0	205	188	134
21	静岡県	6	0	492	444	306	0	0	0	492	444	306
22	愛知県	8	0	380	319	158	14	14	3	394	333	161
23	岐阜県	1	1	59	40	20	0	0	0	59	40	20
24	三重県	4	0	76	70	36	1	1	1	77	71	37
25	滋賀県	4	0	218	196	129	0	0	0	218	196	129
26	京都府	3	0	126	108	78	0	0	0	126	108	78
27	大阪府	6	0	261	209	121	0	0	0	261	209	121
28	兵庫県	4	0	166	148	97	1	1	1	167	149	98
29	奈良県	4	0	92	86	48	18	18	11	110	104	59
30	和歌山県	1	1	63	55	34	0	0	0	63	55	34
31	鳥取県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
32	島根県	4	0	159	132	98	0	0	0	159	132	98
33	岡山県	8	0	499	441	305	4	4	4	503	445	309
34	広島県	2	0	66	54	37	0	0	0	66	54	37
35	山口県	6	1	136	110	68	0	0	0	136	110	68
36	香川県	2	0	66	59	38	0	0	0	66	59	38
37	徳島県	6	2	187	149	83	0	0	0	187	149	83
38	愛媛県	7	1	189	169	104	0	0	0	189	169	104
39	高知県	4	0	81	60	35	0	0	0	81	60	35
40	福岡県	4	0	205	169	98	0	0	0	205	169	98
41	佐賀県	3	0	82	74	51	1	1	1	83	75	52
42	長崎県	2	2	69	66	42	1	1	1	70	67	43
43	熊本県	4	0	79	78	62	0	0	0	79	78	62
44	大分県	5	0	107	90	55	0	0	0	107	90	55
45	宮崎県	2	0	11	9	6	12	12	12	23	21	18
46	鹿児島県	5	2	258	230	152	0	0	0	258	230	152
47	沖縄県	4	0	169	134	74	0	0	0	169	134	74
合 計		192	20	8,880	7,953	5,324	68	67	42	8,948	8,020	5,366
合格率				66.9%			62.7%			66.9%		

令和5年度 第13回 ビジネスコミュニケーション検定試験 申込者数・受験者数・合格者数集計表

令和5年12月17日(日)実施

No.	都道府県名	試験場 校数	分会場 校数	高校			一般			合計			年度合計		
				申込	受験	合格	申込	受験	合格	申込	受験	合格	申込	受験	合格
1	北海道	4	6	617	557	487	1	1	0	618	558	487	852	779	645
2	青森県	1	0	84	73	46	0	0	0	84	73	46	84	73	46
3	岩手県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	19	18
4	宮城県	5	0	175	145	96	0	0	0	175	145	96	494	415	268
5	秋田県	3	2	58	54	44	0	0	0	58	54	44	148	143	91
6	山形県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	67	63	40
7	福島県	4	1	102	98	75	0	0	0	102	98	75	385	364	261
8	茨城県	3	0	148	116	94	0	0	0	148	116	94	437	365	237
9	栃木県	5	0	399	342	239	0	0	0	399	342	239	1,918	1,782	1,391
10	群馬県	7	1	588	532	393	2	2	2	590	534	395	1,074	994	710
11	埼玉県	5	0	239	214	117	3	3	3	242	217	120	657	603	303
12	千葉県	3	1	202	195	147	1	0	0	203	195	147	231	221	165
13	山梨県	2	0	21	16	11	0	0	0	21	16	11	120	107	69
14	東京都	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	140	114	72
15	神奈川	1	0	35	33	28	0	0	0	35	33	28	51	46	40
16	新潟県	4	0	91	83	58	0	0	0	91	83	58	417	396	304
17	富山県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18	石川県	2	0	84	64	50	0	0	0	84	64	50	94	73	58
19	福井県	1	1	10	9	7	0	0	0	10	9	7	67	61	42
20	長野県	4	2	228	206	94	0	0	0	228	206	94	433	394	228
21	静岡県	6	0	342	311	221	1	1	1	343	312	222	835	756	528
22	愛知県	6	1	650	602	401	12	10	3	662	612	404	1,056	945	565
23	岐阜県	2	0	68	59	31	0	0	0	68	59	31	127	99	51
24	三重県	1	1	10	8	3	0	0	0	10	8	3	87	79	40
25	滋賀県	3	0	141	128	99	0	0	0	141	128	99	359	324	228
26	京都府	3	0	54	47	34	0	0	0	54	47	34	180	155	112
27	大阪府	3	0	222	161	79	0	0	0	222	161	79	483	370	200
28	兵庫県	3	0	58	51	34	0	0	0	58	51	34	225	200	132
29	奈良県	2	1	27	24	19	3	3	2	30	27	21	140	131	80
30	和歌山	1	1	19	16	13	0	0	0	19	16	13	82	71	47
31	鳥取県	2	0	20	15	11	0	0	0	20	15	11	20	15	11
32	島根県	2	0	24	23	14	0	0	0	24	23	14	183	155	112
33	岡山県	4	0	468	439	368	0	0	0	468	439	368	971	884	677
34	広島県	2	0	25	20	10	0	0	0	25	20	10	91	74	47
35	山口県	1	0	6	6	5	0	0	0	6	6	5	142	116	73
36	香川県	3	0	105	93	53	0	0	0	105	93	53	171	152	91
37	徳島県	3	0	80	71	41	0	0	0	80	71	41	267	220	124
38	愛媛県	3	2	101	93	60	32	25	8	133	118	68	322	287	172
39	高知県	1	1	6	3	2	0	0	0	6	3	2	87	63	37
40	福岡県	5	0	297	222	132	0	0	0	297	222	132	502	391	230
41	佐賀県	4	0	299	258	166	0	0	0	299	258	166	382	333	218
42	長崎県	4	0	100	73	42	0	0	0	100	73	42	170	140	85
43	熊本県	3	0	63	51	39	0	0	0	63	51	39	142	129	101
44	大分県	7	1	352	298	191	0	0	0	352	298	191	459	388	246
45	宮崎県	4	0	208	173	88	0	0	0	208	173	88	231	194	106
46	鹿児島	7	0	468	411	235	0	0	0	468	411	235	726	641	387
47	沖縄県	6	1	283	237	148	0	0	0	283	237	148	452	371	222
合 計		145	23	7,577	6,630	4,525	55	45	19	7,632	6,675	4,544	16,580	14,695	9,910
合格率				68.3%			42.2%			68.1%			67.4%		